東京聖徳学園 創立 90 周年記念募金へのご協力 誠にありがとうございました。

募集期間　2022 年 4 月～2025 年 3 月

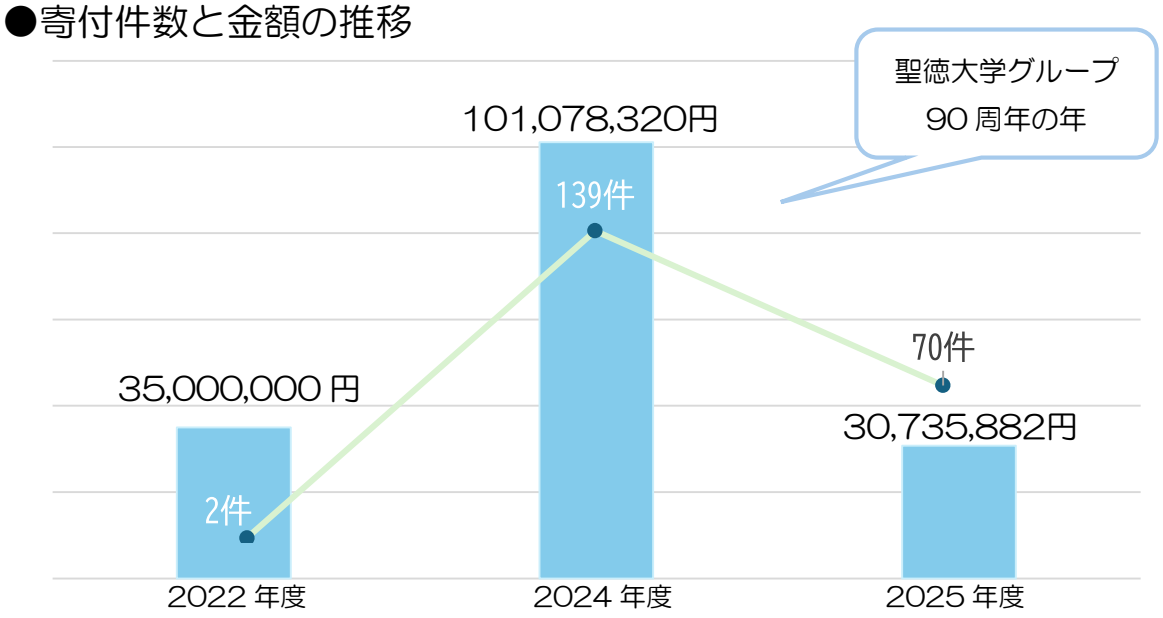
総　　額　166,814,202 円

件　　数　211 件

受付状況

	個人	団体	法人	合計
件数	164 件	37 件	10 件	211 件
金額	18,008,000 円	57,010,000 円	91,796,202 円	166,814,202 円

●寄付件数と金額の推移



皆さまからのご寄付は、次の事業に活用されました。

■三田キャンパス壁画「伝統」の保存・移設

■三田幼稚園　園庭用幼児靴箱整備

■三田幼稚園　屋外テント整備

■学びを支える奨学金制度への支援

ご支援によって実現した一つひとつの取り組みは、子どもたちや学生たちの成長を支え未来へとつながっています。
心より感謝申し上げますとともに、今後とも温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

ご寄付により実施した内容

～三田キャンパス 継承と再生～
壁画「伝統」の保存・移設プロジェクト



Before



After

三田キャンパスでは、校舎建て替えに伴い、学園の歩みを象徴する壁画の保存・移設事業を実施しました。時代の変化の中にあってもその価値を失うことなく次世代へ受け継ぐための取り組みです。

●受け継ぐべき「象徴」として

玄関ロビーに設置されていた壁画「伝統」は、作者である画家利根山光人先生の「壁画は単なる装飾ではなく教育的メッセージを伝えるもの」という制作理念と聖徳学園の創立者川並香順先生の「本物に接することの大切さ」「校舎は箱を建てるだけでなく、芸術的に薫り高い環境にしなければならない」との学びの場への理念が込められています。



移設前： 学園の歴史を見守り続けてきた姿



過程：慎重に進められた移設作業

●時を超えて「変わらないもの」

石は長い年月の中で風雨によって形を変えながらも本質は変わりません。それは、時代に応じて教育の形を柔軟に変えながらも「和」の理念を大切にしてきた学園の姿そのものです。

●再生 新たな空間へ

保存処理・安全な移設作業・新たな展示空間の整備が実現し、壁画は無事に新校舎へと移されました。現在は玄関ロビーで学生を迎える象徴となっています。



現在：新校舎玄関（学生が集う場）

幾多の年月を越えて受け継がれてきた想いは、今、新たな空間の中で息を吹き返し、未来を担う学生たちの日々に寄り添いながら、静かに語り続けていきます。
一つひとつの積み重ねが、やがて次の時代へと受け継がれていく・・・
本プロジェクトが、未来へつなぐ第一歩となりました。

～「自分でできる」を育てる環境へ～
三田幼稚園　園庭用幼児靴箱の整備

幼稚園での一日は、靴を履き替える小さな一歩から始まります。
その何気ない身支度のひとつひとつが、子どもたちの成長を支える大切な時間です。



ご寄付により、３歳児用の園庭用靴箱を新たに整備することができました。
（やわらかシューズボックス（18人用）　６台設置）

自分の場所を見つけ、靴を手に取り、丁寧にしまう。
その繰り返しの中で、子どもたちは少しずつ「自分でできる」という力を身につけていきます。
その積み重ねが、子どもたちの自信となり、次の成長へとつながります。

～子どもたちを守る“日陰”をつくる取り組み～
三田幼稚園　屋外テント整備

行事の時や園庭でのびのびと過ごす時間を、子どもたちの大切な成長の機会と捉えています。
日差しの中で走り回り、友だちと関わりながら遊ぶ。
そのひとときは、心と体を育むかけがえのない時間です。
しかし一方で、近年の強い日差しや急な天候変化への対応が課題となっていました。



（折りたたみ式テント　４張 整備）

この課題は、行事や園庭で使用する屋外テントを整備することで解決ができました。新たに整備したテントは、折りたたみ式で軽量化されており、設営・撤収の安全性にも配慮した仕様となっています。運動会当日には子どもたちや保護者を強い日差しから守る“やさしい日陰”として、大切な役割を果たしました。屋外での活動に安心感が加わることで、子どもたちはよりのびのびと過ごし、活動の幅も広がっています。

～学びの機会を逸しないために～　学びを支える奨学金制度への支援

奨学金制度は、グループ全体で学生の学びを支えるために運営されています。皆さまからお寄せいただいたご寄付は、その制度を支える大切な財源として活用いたしました。

聖徳大学グループ全体　奨学金実績

2022 年度	2023 年度	2024 年度
585,768,481 円	574,885,478 円	679,676,980 円

これからも一人ひとりの可能性を守り育むために、学びの機会を支える取り組みを続けてまいります。
引き続き温かいご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。